

一之宮町まちづくり計画

(2022年～2025年)



令和4年4月

一之宮町まちづくり協議会

目次

第1章	はじめに	p.1
第2章	計画の構成	p.1
	(1) 計画期間	p.1
	(2) 計画の方針	p.1
第3章	まちの特性	p.1
第4章	まちの将来像(将来のイメージ)	p.2
第5章	まちづくりの戦略	p.2
	(1) 基本目標	p.2
	(2) 概念図	p.3
	(3) 主要項目(キーワード)の設定	p.4
	(4) 計画の体系	p.4
第6章	キーワードにおける現状と 課題・目指す姿・具体的な取り組み	p.5
	(1) 「居心地」の良いまちづくり	p.5
	(2) 「人心地」の良いまちづくり	p.8
	(3) 「住み心地」の良いまちづくり	p.10
	(4) 全体構成	p.14
	(5) SDGsとの関連性	p.16
第7章	まちづくり計画の推進に向けて	p.17
	(1) 高山市第八次総合計画との関連性	p.17
	(2) 計画の実行性の確保	p.17
	(3) 提案・意見等の取り扱いと実践	p.17

第1章 はじめに

一之宮町まちづくり協議会では、10年、20年先の一之宮町の姿を思い描き、町民の皆様へのアンケートやガヤガヤ会議・ワークショップなどを実施し、多くの思い・意見を盛り込んだ「一之宮町まちづくり計画」を策定しました。

一之宮の町には、自然・伝統・文化など数多くの宝物が眠っています。他方、高齢化や人口減少の課題も抱えていますが、子ども達が成人した時に、一之宮の町を誇りに思えるようなまちづくりが我々の責務と考えます。

宝物を存分に活用し、安全・安心で住み続けたい、移り住みたいと思われるような、また、助け合い、声を掛け合い、笑い声がこだまする活気ある町を築き上げていきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いいたします。

一之宮町まちづくり協議会 会長 野添克良

第2章 計画の構成

(1) 計画期間

本計画の期間は、令和4年度（2022年）から令和7年度（2025年）までの4年間とします。

次期計画からの計画期間は10年間とし、始期は高山市総合計画との整合性を確保するため、市総合計画の1年後とします。

(2) 計画の方針

① 一之宮の特性を活かす計画

一之宮町の特性を活かすことにより、オリジナリティを創出します。

② 持続的・継続的に無理なく実施できる計画

ワクワク感を大切にしながらできるところから取り組みます。

③ 特性を活かし、町民が抱える問題・課題を少しでも解消する計画

特性を活かすことにより、町民が抱える問題・課題を少しでも解消します。

④ SDGsの概念を取り入れた計画

多様な主体が連携・協働し、分野横断による取り組みによりSDGsの達成に貢献します。



第3章 まちの特性

① 他に誇れる自然や産業、伝統を活かし、多くの人を呼び込むポテンシャル（内に秘めた力）を有している

- ・ローラースキーみや大会、飛騨位山トレイル、モンデウススキー大会、臥龍桜・桜まつり、川遊びなど
- ・飛騨一之宮グリーン体験宿、農村体験型教育旅行の長い歴史
- ・飛騨人の総氏神である飛騨一宮水無神社、飛騨生きびな祭

② 子どもの教育に関心が高い

兄弟のように育つ保小中の子どもたち、高山市教育研究所であい塾の設置、宮っこ応援サポーター、さくら食堂の活動、子どもたちの発表の場(文化祭等)の確保など教育への関心が高い。

③ 高山市の中で一番集落が集中している

約52km²と高山市で最も小さい町域であるとともに、集落が比較的集中しており、町民同士の顔が見える町となっている。

④ 高山市中心市街地に最も近接している

市中心市街地に近接し、通学(高校)や通勤、通院、買い物などへの利便性を有している。

第4章 まちの将来像(将来のイメージ)

① 他に誇れる自然資源(位山、源流、国指定天然記念物「臥龍桜」、バイカモをはじめとした貴重な植生他)や伝統文化(飛騨一宮水無神社の神事芸能、飛騨生きびな祭、宮笠他)、産業(農林業)、景観(田園風景)を守り、活用して、多くの人々が訪れる活気と刺激を持つ町。

② 幼児教育から生涯学習まで、教育や子育て、自己研鑽(生きがいづくり)に関心が高く、子育てしやすく、生涯を健全に過ごせる町。

③ 世代を超えた地域研究(知る・学ぶ)により、アイデンティティ(他ならぬ一之宮町民そのものであるという心)が涵養される町。

※ここでいう「涵養」とは：大学進学や就職で町を離れる若者が、培われたアイデンティティにより、一之宮町のPR大使として羽ばたいてくれる町。

④ 世代を超えた地域コミュニティが存在し、日常生活から災害時まで、お互いを気づかう共助の心を持った「地域力」の高い町。

⑤ 住み続けたいと思う高山一のベッドタウンであるとともに、上記の波及効果により、住んでみたい人(移住)、ビジネスを始めたい人(起業家)などが多く現れる町。

第5章 まちづくりの戦略

(1) 基本目標

- ・「第4章 まちの将来像」を達成するために、基本目標を「ここち良いまち飛騨一之宮」と設定します。
- ・基本目標の具現化するため、以下の“まちづくり(活動)の3本柱”を設定し、まちづくりを進めます。

① 「居心地」の良いまちづくり

魅力を守り、活用した 何度でも訪れたい賑わいのある町

- ・伝統文化・歴史、自然、産業、スポーツイベントなど、他に誇れるまちの魅力(特性)を活かした賑わいのある町をつくりまします。

② 「人心地」の良いまちづくり

人づくりに積極的な文化の香り高い町

- ・子どもからお年寄りまで、誰もがいつまでも学べる機会を提供し、一之宮町民である誇りとアイデンティティが培われる町をつくりまします。

③ 「住み心地」の良いまちづくり

ずっと住み続けたい、住んでみたいと思う町(高山一のベッドタウン)

- ・自然や伝統文化に包まれ、安全・安心で利便性が確保された田園都市の中で、ずっと住み続ける、住んでみたい町をつくりまします。

なお、上記の3本柱におけるまちづくりの実現には、世代間交流や世代を超えた取り組みを大事にし、世代の垣根がない町の構築に留意しながら取り組むこととします。

まちづくり計画 基本目標概念図

居心地、人心地、住み心地の良い源流の郷

こころ良いまち 飛驒一之宮

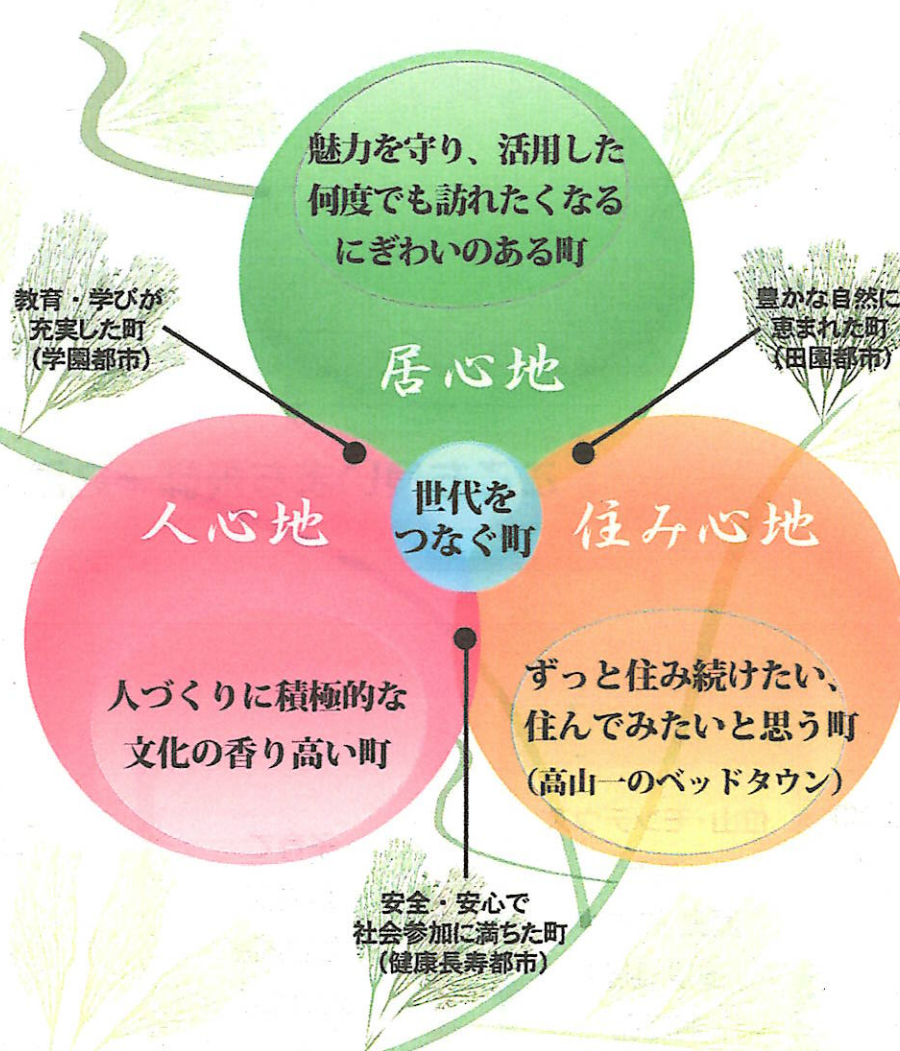
<まちづくり（活動）の3本柱>

居心地：伝統文化・歴史、自然、産業、スポーツイベントなど、他に誇れる町の魅力（特性）を活かした賑わいのある町をつくる。

人心地：子どもからお年寄まで、誰もがいつまでも学べる機会を提供し、一之宮町民である誇りとアイデンティティが培われる町をつくる。

住み心地：自然や伝統文化に包まれた、安全・安心で利便性が確保された田園都市の中で、ずっと住み続ける、住んでみたい町をつくる。

心地の良い源流の郷



<まちづくり活動を進める際の留意点>

3つのまちづくりの柱を実現するための活動においては、世代間交流、世代を超えた活動を大事にし、世代がつながれた町の構築に努める。

(3) 主要項目(キーワード)の設定

“まちづくり(活動)の3本柱”を実現するために、柱毎に主要項目(キーワード)を設定し取り組みの細分化を図ります。

3本柱における主要項目(キーワード)は、以下のとおりです。

まちづくり(活動)の3本柱	主要項目(キーワード)
「居心地」の良いまちづくり	1. 位山・モンデウス 2. 源流 3. 歴史・ロマン 4. 風景・眺望 5. 特産品
「人心地」の良いまちづくり	1. 子育て 2. 地域愛 3. 生涯学習 4. 人づくり
「住み心地」の良いまちづくり	1. 移住定住 2. コミュニティ 3. 高齢者 4. 公園 5. 便利 6. 消防・防災・防犯

(4) 計画の体系

まちの将来像

- 他に誇れる自然資源や伝統文化、産業、景観を守り、活用して、多くの人が訪れる活気と刺激をもつ町
- 幼児教育から生涯学習まで、教育や子育て、自己研鑽（生きがいづくり）に関心が高く、子育てしやすく、生涯を健全に過ごせる町
- 世代を超えた地域研究（知る・学ぶ）により、アイデンティティ（他ならぬ一之宮町民そのものであるという心）が涵養される町
- 世代を超えた地域コミュニティが存在し、日常生活から災害時まで、お互いを気づかう共助の心を持った「地域力」の高い町
- 住み続けたいと思う高山一のベッドタウンであるとともに、上記の波及効果により、住んでみたい人（移住）、ビジネスを始めたい人（起業家）などが多く現れる町

基本目標

こちち良いまち飛驒一之宮

まちづくり(活動)の
3本柱と
キーワード

「居心地」の良い
まちづくり

位山・モンデウス
源流
歴史・ロマン
風景・眺望
特産品

「人心地」の良い
まちづくり

子育て
地域愛
生涯学習
人づくり

「住み心地」の良い
まちづくり

移住定住
コミュニティ
高齢者
公園
便利
消防・防災・防犯

担当部会

居心地部会

人心地部会

住み心地部会

第6章 キーワードにおける現状と課題・目指す姿・具体的な取り組み

(1)「居心地」の良いまちづくり

キーワード 1. 位山・モンデウス

現状と課題	・スキー人口の減少やレジャーの多様化により、来訪者が減少している。 ・資源を上手く活用して季節に応じたイベント等を開催することで、交流人口の増加やにぎわいの創出に結びつける取り組みが必要。 ・分水嶺を成す位山周辺の魅力ある地域資源が効果的に活用されていないため、地域資源と観光資源を効果的に結びつける取り組みと地域内外への情報発信の強化が必要。  
目指す姿	・地域住民はもとより地域外からも、位山及びその周辺に四季を通じて人が集まり、子どもから高齢者までイベント等を気軽に楽しみ、笑顔や歓声が広がっている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	3 すべての人に健康と福祉を 6 安全な水とトイレを世界中に 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう
スローガン	(1) 知ってもらって、楽しんでもらって、交流人口を増やそう！ (2) 一年中人が集って歓声が響く場所にしよう！ (3) 家族が気軽に楽しめる公園にしよう！ (4) スキーだけじゃない。雪で遊んで冬を楽しもう！
具体的な取り組み	・スポーツツーリズム(ローラースキー、飛騨位山トレイル) ・スノーシュー体験 ・源流の森クルージング など 

キーワード 2. 源流

現状と課題	・美しい源流は地域活動などによって保全されているが、今後は、水辺空間を含めた活用も考えていく必要がある。 ・清流の証であるバイカモ保護やホタルの里づくりは活動が衰退傾向にあるため、活動への賛同者や後継者の育成が必要。 
-------	---

目指す姿	・ 清らかに流れる源流に、魚やバイカモ、ホタルなどが生息し、まわりの森林空間と共に、住民や訪れる人々の心に安らぎをもたらしている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	      
スローガン	(1) 森林や清流など豊富な自然を満喫しよう！ (2) 昔ながらの自然を守り、育てていこう！
具体的な取り組み	・ 巨樹巨木の保護 ・ バイカモ保護（後継者の育成） ・ 環境整備 ・ 野焼きのマナー啓発 ・ ごみの減量化・食品ロスの啓発 など 

キーワード 3. 歴史・ロマン

現状と課題	・ 「位山古道」、「桜」「巨樹・巨木」「巨石群」などの文化歴史資源を更に知ってもらうため、資源のPR強化や活用（歴史文化ツアー等）への取り組みが必要。 ・ 桜は主に地域ボランティアによって管理されているが、高齢化が進んでいるため、保護活動に取り組む後継者の育成や人手の確保が必要。
目指す姿	・ 昔の人はどういう思いでここを歩いたのだろう・・・とロマンを感じながら歴史に思いを馳せる「位山古道」、心のよりどころ飛騨一宮水無神社と2つのお寺に町の誇りを感じながら、歴史と文化に包まれ生活を営んでいる。 ・ 手入れが行き届き、美しく咲く「桜の樹々」に地域も桜色に染まり、訪れる人みんなが心も体も幸せに満ちている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	  
スローガン	(1) 森の巨人やまちの巨人たちといっしょに歴史と神秘を感じよう！ (2) 心に宿る桜文化を大切にしよう！ (3) ふるさとの味で知恵を学び、味覚を育もう！
具体的な取り組み	・ 巨石の保護 ・ 桜並木の保護 ・ 郷土料理（一之宮の家庭の味）教室の開催 ・ 歴史文化ツアー など 

キーワード 4. 風景・眺望

現状と課題	- 美しい田園風景は、四季を通じて人々の心を魅了している。特にJRの車窓からの眺めは、旅人の心を郷愁に駆りたてる。 - 魅力ある「広大な田園風景」を活用して、交流人口の増加やにぎわい創出に結びつける効果的な取り組みが必要。 
目指す姿	地域の中心部に広がる田んぼと住宅とが織りなす田園風景・・・春夏秋冬、様々な表情を見せながら、旅人の心を郷愁に駆りたてる。町の人々は田園を守りながら、自慢の風景を楽しんでいる。・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	  
スローガン	(1) ふるさとの田園風景をのこそう！ (2) 田んぼで遊ぼう！ (3) ビュースポットで映えよう！（ばえよう！）
具体的な取り組み	- 田園フォト展の開催 - かしコンテスト “ばえる”スポットの調査、大型額縁の設置・インスタ投稿PR など

キーワード 5. 特産品

現状と課題	- 米やトマトといった地場産物を活用して“一之宮地域でしか食べられないメニュー”の開発をするなど地域の活性化につながる取り組みが必要。 - 宮笠は技術性、芸術性の高い民芸品であるが、技術の伝承や後継者不足に悩んでいるため、伝承者育成は喫緊の課題。 
目指す姿	- 伝統工芸品「宮笠」の従来の製作伝承に加え、技術を活用したクラフトの開発など、伝承と発展を融合した、保存活動と人材育成が活発である。 - 源流の水で作った米やトマトなどの農作物で新たな商品や料理の開発がなされ、源流域で作った作物の価値を高めている。 - 道の駅での提供やふるさと納税返礼品で好評を得ている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	   
スローガン	(1) 伝統工芸技術を体験して、伝え、光をあてよう！ (2) 特産品を発掘、開発しよう！
具体的な取り組み	- 受け継がれてきた伝統文化の継承(世代間交流の促進) - 宮笠技術を活用したクラフト体験会 “一之宮”でしか食べられない「特産品」メニュー開発(地産地消、雇用や利潤を生み出す可能性) など

(2)「人心地」の良いまちづくり

キーワード 1. 子育て

現状と課題	- 共働きによる親子の時間不足や、核家族の増加傾向により、子育ての相談相手に困り、不安を抱える方も少なくない。親子で過ごす時間を増やしたり、親同士で話したり、世代を超えて交流することで、子育ての困りごとを解消できる機会が必要。 - 子どもから高齢者まで、気楽に憩いながら、ふれあいを深めることができる場の開設が必要。
目指す姿	同世代の子を持つ親が気軽に交流したり、行事に参加したり、時には先輩お父さん・お母さんなどからのアドバイスをもらえる機会や環境が整っており、いつも元気に笑顔でみんなが触れ合い、楽しさにあふれた声が響き渡っている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	     
スローガン	(1) 親子で楽しもう！ (2) 悩みは解決！知恵も教わろう！ (3) のびのびと遊ぼう！
具体的な取り組み	- イベント、行事等への参加 - ベテランお父さん・お母さんの知恵袋(子育て悩み相談) - ネバーランドの充実 - 地域福祉の推進 - 世代を超えて憩うことのできる広場の整備 など

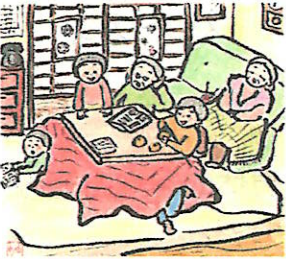
キーワード 2. 地域愛

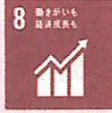
現状と課題	- 子どもたちは、保育園から中学校までの12年間を同じ仲間と過ごすため、兄弟のように絆が強い。 - 高校卒業後、進学や就職で都会へ移り住む傾向にある。“一之宮町で育ってよかった”という誇りと“いつかは一之宮町に帰りたい”というふるさと回帰の心を抱くことができる地域と子どもたちのつながりが必要。 - 地域愛「一之宮プライド」の醸成を図っていくことが重要。
目指す姿	保育園から中学校まで兄弟のように過ごす「宮っ子」たち。家庭、学校、地域で愛され育った「宮っ子」たちの心には、町の美しさや人々の優しさふるさと一之宮への誇りとともに、「一之宮愛」が刻まれている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	  
スローガン	(1) 地域への愛着を大切に、誇りとアイデンティティを育もう！
具体的な取り組み	- 成人式等の各種行事による地域愛「一之宮プライド」の醸成 - コミュニティスクールの推進(学校・地域・家庭の連携) など

キーワード 3. 生涯学習

現状と課題	- 各種講座への参加は多いが、参加者は固定化しがちである。講座内容や場所に工夫やアレンジを加えるなど、学びたくなるような魅力的な講座の開設が必要。 - 地域にはいろいろな特技、技術、知識を持った方がたくさんいる。その知識や特技等を活かす機会として、「生涯学習人材バンク」の設置の検討が必要。 
目指す姿	- 学んだこと、好きなこと、得意なことを登録する「人材バンク」により教えたい人には生きがいの場が提供され、学びたい人は講師である住民から学ぶことができる。住民は互いに教え学びながらいきいきと暮らしている。 - 多種多様な講座の開催や知識の共有の場ができ、まちの課題解決にもつながっている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	
スローガン	(1) 楽しく学ぼう！ (2) 教養を身につけよう！ (3) いきいきと過ごそう！ (4) 特技を活かそう！
具体的な取り組み	- 夏休み学習会 - サタデーサークル - 趣味や教養を高める講座の開催 - 六地区大会 - 班ソフトボール大会 - 野球大会 - 気軽に参加でき、負担を感じない行事の開催 - 一之宮生涯学習人材バンクの構築・登録・活用 など

キーワード 4. 人づくり

現状と課題	- 高齢化や若者流出等により、伝統文化や祭礼の後継者が不足している。世代を超えて、若者から高齢者まで集う機会を設け、これまでの経験や技術を伝承していくことは喫緊の課題である。 - 若者が学び、動くことで地域の「躍動感」が生まれ、高齢者が教え伝えることは「生きがい」につながる。世代を超えたコミュニケーションの積み重ねにより「後継者育成」へとつなげる取り組みが必要。 - 農業分野においても、後継者不足に悩んでいる。 
--------------	---

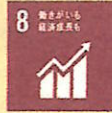
目指す姿	・幼い頃から地域愛「一之宮プライド」が育まれた若者は、若者らしい感覚で、集まり、考え、町を盛り上げている。 ・若者は、町の文化を絶やさぬよう、神社の祭りに参加し、子どもたちに伝えている。高齢者世代は、幅広い世代を集めては、昔からの知恵や技を伝授して、世代を超えた交流の輪が広がっている。
SDGsとの関連	    
スローガン	(1) 出でよ！若者！ (2) (まつりに参加して) まつりをにぎやかに！ (3) お年寄りから学ぼう！ (4) 野菜づくり名人になろう！
具体的な取り組み	・中学生、高校生の地域行事（文化祭など）への参加 ・神社まつりに参加 ・闘鶏楽の練習と実演 ・宮笠づくりやわら細工、竹ほうきづくりの伝承 ・[再] 受け継がれてきた伝統文化の継承(世代間交流の促進) ・野菜づくり講座の開催 ・子どもたちの農業体験 ・新規就農者への技術伝授 など

(3) 「住み心地」の良いまちづくり

キーワード 1. 移住定住	
現状と課題	・市中心部に近く、コンパクトにまとまっている一之宮地域は、便利さが備わり、田舎暮らしを満喫するには最適な場所である。 ・移住者の増加及び定住者の減少抑制により、人口を増やし、子どもを増やすことで地域を活性化していくことが必要。 ・積極的な魅力発信や移住環境の整備、移住促進イベントの開催、市との協力強化により、移住定住の推進が必要。
目指す姿	・一之宮町は「住み心地がよく、人も温かく、暮らしやすい」、「子どもの育つ環境が良い」、「田舎暮らしが満喫できる」との評判が広がり、子育てが始まる夫婦や、農業で起業したい若者たちが移住している。 ……そんな町の姿
SDGsとの関連	    
スローガン	(1) 移住者を増やそう！ (2) 結婚を応援し、子育て世代が移住しやすい環境をつくろう！ (3) 住宅を建てやすくしよう！
具体的な取り組み	・移住希望者へのPR強化、魅力発信 ・空き家活用 など



キーワード 2. コミュニティ

現状と課題	・ライフスタイルの多様化等により、町内会（班）に入らない世帯が増加傾向にある。平時から、お互いが声をかけられる関係づくりや環境づくりを町内会単位、班単位で取り組むことが必要。 ・班加入を敬遠される要因でもある役回りや高額な入会費等、負担を軽減していく見直しや検討が必要。
目指す姿	・子どもから高齢者まで、互いにあいさつを交わし、気持ちの良い温かなまち。小さな声かけがまち中に広がり、やがては、互いの交流や見守りなどにつながり「まちなかの絆」となっていく。・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	    
スローガン	(1) 気楽な近所付き合いで、共に助けあおう！ (2) 子どもたちを守り、つながりやふれあいを大事にしよう！ (3) 子ども会活動を充実しよう！
具体的な取り組み	・日頃からの声かけやあいさつ運動 ・親睦を深める機会の充実 ・子ども食堂 ・見守り隊やスクールサポーターの継続と維持 ・通学路における危険個所の把握（見回り） ・子ども会活動の支援、改革 ・町内会・班の会費等の見直し など

キーワード 3. 高齢者

現状と課題	・少子高齢化、人口減少、核家族化が進み、独居老人や老人世帯が増加傾向にある。独居や老人世帯の孤立化を防止するためにも、地域の支え合いや声掛け等の環境づくりが必要。 ・高齢者の知恵や技術などを習得する機会を設け、生きがいづくりと伝承を推進する取り組みが必要。
目指す姿	・高齢者の方々が知恵や技を町の方に伝承しながら、元気に楽しく、「いきがい」を持って暮らしている。そんなコミュニケーション溢れる場は大切な情報交換する機会にもなっている。・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	    
スローガン	(1) 元気な高齢者にまだまだ活躍してもらおう！ (2) 健康寿命を延伸しよう！ (3) 寂しさや不安なく、生活してもらおう！
具体的な取り組み	・昼間の町内人口が少ない時の防災・防犯活動 ・健康づくりサークル（体操等）のPRと参加 ・見守り活動の充実 ・高齢者の把握 ・地域福祉の推進 など 

キーワード 4. 公園

現状と課題	- 公園はいくつかあるが、子どもが遊具で思いっきり遊んだり、幅広い世代が集えるような身近な公園がない。 - 幅広い世代が 気軽に集い、憩える場所 づくりの検討が必要。	
目指す姿	- 世代を超えて、子どもから高齢者まで、楽しく集い、明るい声が響き渡っている。遊具で遊ぶ子どもたち、ベンチで憩う高齢者の方々、温かく幸せな雰囲気に包まれている。 ・・・そんな町の姿	
SDGsとの関連	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリシップで目標を達成しよう	
スローガン	(1) まち全体を公園にしよう！ (2) 子どもからお年寄りまで楽しめる広場をつくろう！	
具体的な取り組み	世代を超えて憩うことのできる広場の整備 など	

キーワード 5. 便利

現状と課題	「のらマイカー（デマンドタクシー）」の延伸により、買い物への利便性が良くなった。今後、利用者の増加に向けた取り組みを継続し、のらマイカーの永続的な運行につなげることが必要。 - 情報通信環境は、山間地においてまだ不自由さが感じられる。情報通信技術を活用した便利な生活を市と協力して行う検討が必要。	
目指す姿	- のらマイカー（デマンドタクシー）を利用して買い物に出かける高齢者やバスや列車を利用して出かける小中学生などで、市街地への交通の便がよい町となっている。 ・・・そんな町の姿	
SDGsとの関連	2 気候変動に具体的な対策を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と地域経済の循環 성장을図ろう 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリシップで目標を達成しよう	
スローガン	(1) 公共交通を上手につかおう！ (2) 情報通信の聖地にしよう！	
具体的な取り組み	のらマイカー(デマンドタクシー)の継続と維持 など	

キーワード 6. 消防・防災・防犯

現状と課題	・災害発生時に備え作成した「地区防災計画」の住民への浸透が必要。 ・防災意識の高揚や災害発生時に適切な行動ができるよう、組織体制の整備や住民への更なる周知が必要。
目指す姿	・住民一人ひとりの防災意識が高く、災害時には“自助・共助・公助”の行動がしっかりと行われ、救える命を大切にしている。 ・・・そんな町の姿
SDGsとの関連	      
スローガン	(1) 災害に強いまちにしよう！（災害のないまちにしよう） (2) 安心して暮らせるまちにしよう！
具体的な取り組み	・要支援者の把握 ・道路等の危険個所の把握（見回り）と改善 ・地区防災計画の推進 ・防災マニュアル「家庭版」の利用 ・防犯活動の継続 ・安全パトロールの支援 ・[再] 見守り隊やスクールサポーターの継続と維持 ・地域防災の強化（地域ぐるみで行う防災学習、防災訓練等） など



(4) 全体構成

基本目標 .. こころ良いまち飛騨二之宮

「居心地」

魅力を守り、
活用した何でも
訪れたい
にぎわいのある町

1. 位山・モンデウス

- (1) 知ってもらって、楽しんでもらって、交流人口を増やそう!
- (2) 一年中人が集って歓声が響く場所にしよう!
- (3) 家族が気軽に楽しめる公園にしよう!
- (4) スキーだけじゃない。雪で遊んで冬を楽しもう!

2. 源流

- (1) 森林や清流など豊富な自然を満喫しよう!
- (2) 昔ながらの自然を守り、育てていこう!

3. 歴史・ロマン

- (1) 森の巨人やまちの巨人たちといっしょに歴史と神秘を感じよう!
- (2) 心に宿る桜文化を大切にしよう!
- (3) ふるさとの味で知恵を学び、味覚を育もう!

4. 風景・眺望

- (1) ふるさとの田園風景をのこそう!
- (2) 田んぼで遊ぼう!
- (3) ビュースポットで映えよう! (ばえよう!)

5. 特産品

- (1) 伝統工芸技術を体験して、伝え、光をあてよう!
- (2) 特産品を発掘、開発しよう

「人心地」

人づくりに積極的
な文化の香り
高い町

1. 子育て

- (1) 親子で楽しもう!
- (2) 悩みは解決! 知恵も教わろう!
- (3) のびのびと遊ぼう!

2. 地域愛

- (1) 地域への愛着を大切に、誇りとアイデンティティを育もう!

3. 生涯学習

- (1) 楽しく学ぼう!
- (2) 教養を身につけよう!
- (3) いきいきと過ごそう!
- (4) 特技を活かそう!

4. 人づくり

- (1) 出でよ! 若者!!
- (2) (まつりに参加して) まつりを賑やかに!
- (3) お年寄りから学ぼう!
- (4) 野菜づくり名人になろう!

「住み心地」

ずっと
住み続けたい
住んでみたいと
思う町
(高山一のヘッドタウン)

1. 移住定住

- (1) 移住者を増やそう!
- (2) 結婚を応援し、子育て世代が移住しやすい環境をつくろう!
- (3) 住宅を建てやすくしよう!

2. コミュニティ

- (1) 気楽な近所付き合いで、共に助けあおう!
- (2) 子どもたちを守り、つながりやふれあいを大事にしよう!
- (3) 子ども会活動を充実しよう!

3. 高齢者

- (1) 元気な高齢者にまだまだ活躍してもらおう!
- (2) 健康寿命を延伸しよう!
- (3) 寂しさや不安なく、生活してもらおう!

4. 公園

- (1) まち全体を公園にしよう!
- (2) 子どもからお年寄りまで楽しめる広場をつくろう!

5. 便利

- (1) 公共交通を上手につかおう!
- (2) 情報通信の聖地にしよう!
- (1) 災害に強いまちにしよう! (災害のないまちにしよう!)

6. 消防・防災・防犯

- (2) 安心して暮らせるまちにしよう!

●実施中の事業 ◎未実施の事業

- スポーツツーリズム（ローラースキー、飛騨位山トレイル）
- スノーシュー体験 ●源流の森クルージング

- 巨樹・巨木の保護
- バйкаモ保護（後継者の育成） ●環境整備 ◎野焼きのマナー啓発 ◎ごみ減量化・食品ロスの啓発

- 巨石の保護 ◎歴史文化ツアー
- 桜並木の保護
- ◎郷土料理（一之宮の家庭の味）教室の開催

- ◎田園フォト展の開催
- ◎かかしコンテスト
- ◎“ばえる” スポット調査・大型額縁の設置・インスタ投稿PR

- ◎受け継がれてきた伝統文化の継承（世代間交流の促進） ◎宮笠技術を活用したクラフト体験会
- ◎“一之宮” でしか食べられない「特産品」メニューの開発（地産地消、雇用や利潤生みだす可能性）

- イベント・行事等への参加
- ◎ベテランお父さん・お母さんの知恵袋（子育ての悩み相談）
- ネバーランドの充実 ◎地域福祉の推進 ◎世代を超えて憩うことのできる広場の整備

- 成人式等の各種行事による地域愛「一之宮プライド」の醸成 ◎コミュニティスクールの推進（学校・地域・家庭の連携）

- 夏休み学習会 ●サタデーサークル
- 趣味や教養を高める講座の開催
- 六地区大会 ●班ソフトボール大会 ●野球大会 ◎気軽に参加でき、負担に感じない行事の開催
- ◎一之宮生涯学習人材バンクの構築・登録・活用

- 中学生・高校生の地域行事（文化祭など）への参加
- 神社まつりに参加 ●闘鶏楽の練習と実演
- 宮笠づくりやわら細工の伝承 ●竹ぼうきづくり ◎〔再〕受け継がれてきた伝統文化の継承（世代間交流の促進）
- ◎野菜作り講座の開催 ◎子どもたちの農業体験 ◎新規就農者への技術伝授

- ◎移住希望者へのPR強化・魅力発信 ◎空き家活用

- 日頃からの声かけやあいさつ運動 ●親睦を深める機会の充実 ◎町内会や班の会費の見直し
- 子ども食堂 ●見守り隊やスクールサポーターの継続と維持 ◎通学路における危険個所の把握（見回り）
- 子ども会活動の支援・改革

- 昼間の町内人口が少ない時の防災・防犯活動
- 健康づくりサークル（体操等）のPRと参加
- 見守り活動の充実 ●高齢者の把握 ◎地域福祉の推進

- ◎世代を超えて憩うことのできる広場の整備

- のらマイカー（デマンドタクシー）の継続と維持

- ◎要支援者の把握 ◎道路等の危険個所の把握（見回り）と改善 ◎地区防災計画の推進
- ◎防災マニュアル「家庭版」の利用 ◎地域防災の強化（地域ぐるみで行う防災学習、防災訓練等）
- 防犯活動の継続 ●安全パトロールの支援 ●〔再〕見守り隊やスクールサポーターの継続と維持

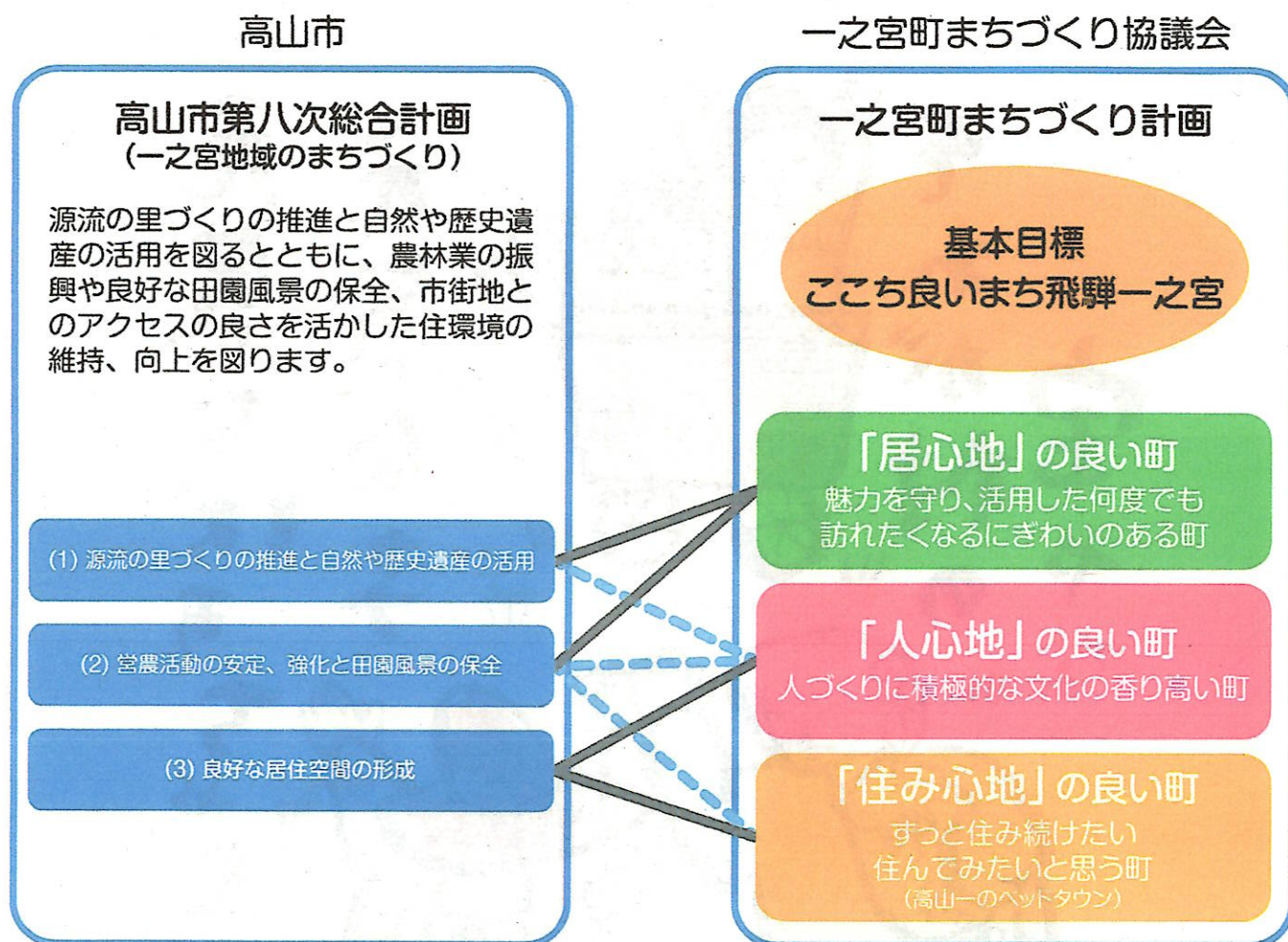
(5) SDGsとの関連性

		SDGsの目標																
		1 貧困	2 飢餓	3 健康と福祉	4 質の高い教育	5 ジェンダー平等	6 安全な水とトイレ	7 エネルギー	8 働きがい	9 産業と技術革新	10 人や国の不平等	11 住み続けられるまちづくり	12 つくる責任	13 気候変動	14 海の豊かさ	15 陸の豊かさ	16 平和と公平	17 パートナリシップ
まちづくり戦略		貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公平をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう
居心地	位山 モンデウス			3			6		8			11			14	15		17
	源流						6		8			11	12	13	14	15		
	歴史 ロマン				4				8			11						
	風景 眺望		2									11				15		
	特産品								8			11	12					17
人心地	子育て	1	2	3		5						11					16	
	地域愛			3	4							11						
	生涯学習			3	4							11						17
	人づくり		2		4				8			11						17
住み心地	移住定住				4						10	11	12					17
	コミュニティ	1				5			8			11					16	
	高齢者		2	3							10	11					16	
	公園				4				8			11						17
	便利		2					7	8	9	10	11						17
	消防・防災 防犯			3					8	9	10	11		13			16	

第7章 まちづくり計画の推進に向けて

(1) 高山市第八次総合計画との関連性

計画の実施にあたり、まちづくり協議会の役割と行政等の役割とを見極め、認識しつつ、計画の実現に向けて、取り組むこととします。



(2) 計画の実行性の確保

- 本計画の骨子は、基本的には継続します。
- 事業を実施する組織や団体、グループ毎に、必要に応じて、実施の点検、課題抽出、課題解決に向けた検討を行うこととします。

(3) 提案・意見等の取り扱いと実践

- 本計画を策定するにあたり、3本柱に係る各部会及び過去に出された各団体や町内会（班）などからの意見・提言は、今後のまちづくりに関する貴重な意見等であるため、まちづくり協議会において整理、管理するものとします。（台帳による整理）
- 上記の提言・意見の実践は、まちづくり協議会部会や関係団体の意向を尊重し、実行できるものから、アレンジし独自性を持ちながら、無理なく、持続的に取り組んでいくこととします。



一之宮町まちづくり協議会

高山市一之宮町3087番地

<TEL> 0577-53-2424

<E-mail> miyamachikyo@hidatakayama.ne.jp

<ホームページ> <https://miyamachikyo.jp>